第5章 朝霞市の地域公共交通の課題

本市の上位・関連計画、人口動向や公共交通の現状等及びアンケート調査による公共交通利用者のニーズを踏まえ、本市における公共交通の課題を以下のように整理する。			
	現況	アンケート結果	公共交通の課題
位置地勢	○鉄道による都心へのアクセスが容易となっている○台地と低地にわかれており、起伏に富んだ地形になっており、坂道の移動がある	○市民の約 50%は、駅までの道で坂道があると回答しており、市内 の高低差を過半数が感じている	①持続可能な地域公共交通の確保 ■将来に亘って、持続可能な地域の公共交通が求められる
人口動向	○人口は増加傾向にあるが、今後の人口構成において少子・高齢化はより顕著になることが予想される ○人口構造で見ると 35 歳~39 歳人口が男女ともに最も高い ○駅周辺において人口密度が高くなっている ○内間木地域は他の地域と比較して、高齢者の割合が高い		■人口構造の変化に伴った、弾力的な交通網の形成
	公空 共白 交地 通区 ○公共交通空白地区人口:3.4%(約5,000人) →カバー率約96.6%(約13万人) ○公共交通空白地区面積:約226ha (朝霞市面積:1,834haの約12%)	○「鉄道駅・バス停まで移動に不便に感じている」割合の高い地域は、これまで認識していた公共交通空白地区とはぼ一致 ○公共交通空白地区での停留所の設置要望が多い ○公共交通空白地区での免許返納の意向が低い ○朝霞台駅のエレベーター設置への意見が多い	②公共交通空白地区への対応■自動車がなくても外出しやすくなる支援が求められる■バス停や鉄道駅等まで不便なく行き来できるネットワーク形成
公共交通	交結 通節	○朝霞駅・北朝霞駅(朝霞台駅)待ち合わせ施設の満足度が低い ○市内循環バスや路線バス利用者の半数以上が他の交通機関乗り換えをしている ○市民の約 15%はバス停まで不便と感じている ○路線バス、市内循環バスの増便ニーズが多い ○運行の情報提供に関する改善対策の意見が多い	③移動実態やニーズに応じた地域公共交通体系の充実 ■多様な市民ニーズを踏まえた交通体系が求められ
道路交通	○都市計画道路の整備状況は、約 54%となっており、県全域の平均整備率 61%と比較して低い水準 ○市道については、道路整備基本計画を策定し、優先整備路線を選定して効率的な整備を推進している		● 少様では以上 大き頃なんた文虚体派が水のかれてる ②公共交通の利用環境向上
移動実態	○平成 30 年は平成 20 年に比べて公共交通の利用が増加 ○平成 22 年の人口の流動状況は、「通勤」での流出人口割合は 56.6%、「通学」での流出人口割合は 35.9%であり、流出超過	○全目的で市内の移動が約5割、市外では新座市・志木市・和光市への移動が主体 ○全市的に見れば市内の交通手段は、公共交通、自動車、徒歩等がバランス良く利用	■バス停環境の改善が求められている